

令和元年度 高浦中学校 学校評価 総括表

自己評価							
重点目標	具体的努力目標	活動計画と評価指標	活動計画の実施状況と達成度	評価	総合評価		次年度への課題と今後の方策
					評定	所見	
学校生活の充実	① 学級経営の充実	① 学級経営の充実や部活動の活性化を図り、学校評価アンケートの「学校が楽しい」で「あてはまる」「ややあてはまる」を含め90%以上をめざす。	① 学校評価アンケートの「学校が楽しい」は平均83.5%であった。 生徒…88% 保護者…79%	A	A	○生徒は真面目にかつ真剣に取り組み落ち着いた環境の下で、活き活きと楽しい学校生活を送れていると認識していたが、生徒、保護者とも、それほど満足度が高くなかったのが残念な結果であった。また、保護者のアンケート自由記述で学校への要望も数例あり、改善の余地が見える。	○一人ひとり寄り添った教育活動の展開と教育相談体制の充実を図りたい。 ○部活動では、礼儀やマナーの向上を目指すこと、効率の良い充実した部活動を行い、家庭生活のゆとりと家庭学習の充実を図っていききたい。
	② 部活動の活性化	② 心技体の育成をめざし、学校評価アンケートの「部活動に一生懸命取り組んでいる」の満足度を90%以上めざす。	② 学校評価アンケート(生徒)の「部活動に一生懸命取り組んでいる」は全体で79%であった。	B			
	③ 生徒指導・教育相談体制の充実	③ 問題行動対応や悩み解消に向けて、生活アンケートを各学期に2回実施する。	③ 毎学期2回アンケート調査を実施し、問題行動対応や悩み解消に向けて組織的に対応した。	A			
	④ 危機管理体制の充実	④ 施設設備の点検を毎月実施する。	④ 毎月施設や備品の点検を実施し、破損箇所や整備不良はその都度修理をおこなった。	A			
確かな学力の向上	① わかる授業の展開	① 各学期1回授業研修ウィークを設定し、お互いの授業を参観し授業力の向上をめざす。	① 校内研修で、教師がお互いの授業参観を実施した。研究会では、意見を述べ合い互いに高めあった。情報共有や伝達的手段に本年度も検討課題が残った。	B	B	○基礎・基本の大切さを意識した取組を継続させると共に、学習意欲の向上並びに家庭学習の充実をもっと図る必要があると反省している。 ○全国的に本を読まない傾向が顕著で、本校生徒も朝読書は実施しているものの、読書量の不足を痛切に感じている。家庭での時間の使い方やゲームやSNSに費やす時間が多くなっている。本の魅力を知らせる工夫が必要である。また、図書室の開放時間等の工夫を検討課題としたい。	○家庭生活の充実を心がけさせるとともに、家庭学習の充実や家庭での読書量の増加を目指し、言語活動の充実に取り組みたい。 ○各種検定受験の呼びかけをさらに強化したい。特に漢検の受験率を向上させたい。
	② 基礎基本の定着	② I. 言語能力の向上のため毎朝8:05～8:20の15分間朝読書を実施する。 II. 学力向上のため基礎基本の定着として、各教科の観点別評価のAとBの評価の合計割合が85%以上をめざす。	② I. 毎朝ほとんどの生徒が集中して朝読書に取り組めた。家庭での読書も定着するように本の魅力を味わわせたい。 II. 観点別評価のAとBの合計割合は95%であった。さらに、家庭学習の充実・習慣化を図っていききたい。	B			
	③ 学習意欲の向上	③ 英検、漢検を積極的にチャレンジさせる。 英検受検率…30%以上 漢検受検率…25%以上	③ 英検は年3回、漢検は年2回の実施で、それぞれの受検率は、次のようになった。 英検受検率…26.0% 漢検受検率…21.3%	B			
	④ 家庭学習の充実	④ 家庭学習の習慣化のため、自主学習ノートの毎日提出90%以上をめざす。	④ 各学年、生活記録と共に毎日の自主学習ノートの提出は、95%となりほぼ出来たようである。	A			
	⑤ 個に応じた進路指導	⑤ 毎時間の授業の目標をはっきりと提示し、理解が不十分な生徒については、昼休み・放課後等を使って習熟度別指導をおこなう。	⑤ テスト前には個別の指導が出来た。また補充学習等で昼休みや放課後個別指導に積極的に取り組めた。	B			
豊かな心の育成	① 基本的生活習慣の育成	① 小さなことを見逃さず、繰り返し指導をおこなう。	① 生徒と向き合う時間の確保に努め、繰り返し指導できた。日々の事務の時間を計画的に行うよう努めた。	B	B	○本校の伝統である、挨拶や清掃は全体的に物足りなさを感じた。大きな声で爽やかな挨拶が年間を通じてできるようにしたい。 ○道徳が教科科になり、各学年で道徳ローテーション授業や校内研修が実施できた。実践をさらに深めることで、豊かな心の育成に取り組みたい。	○「学びの架け橋」プロジェクトの活動を継続するとともに、学力の向上と中一ギャップの解消等を図り、豊かな心の育成に繋げたい。楽しくなる学校生活に○道徳科や体験活動の重要性を共通理解させ、回数・内容の見直しを図り、年間計画をしっかりと立てる。
	② 挨拶・清掃の徹底	② 随時指導を徹底し、学校評価アンケートの達成度を90%以上をめざす。	② 学校評価アンケート(生徒)では 挨拶…80%、清掃…86%が「できている」と答え、目標の90%には少し達しなかった。	B			
	③ 道徳教育の充実	③ 道徳教育年間計画を、各学年の協力の下、しっかり練り上げ、実践する。	③ 年間計画の作成や資料保存は出来た。教科化され授業の進め方等研究を進めていく必要がある。	B			
	⑤ 体験活動等多様な学習活動の充実	⑤ 体験活動の重要性を認識させ、各学年、年間2回以上実施する。	⑤ 1年…藍学習、生産活動体験、地方別奉仕活動 2年…職場体験学習、地方別奉仕活動 3年…命輝く事業、福祉・介護体験、地方別奉仕活動 各学年とも概ね年2回以上実施し、貴重な体験ができた。	A			

令和元年度 高浦中学校 学校評価 総括表

自己評価							
重点目標	具体的努力目標	活動計画と評価指標	活動計画の実施状況と達成度	評価	総合評価		次年度への課題と今後の方策
					評定	所見	
人権教育の充実	① 自他の生命を大切に する集団づくり	① いじめや仲間はずれのない学級集団づくりをおこなう。学校評価アンケートで「いじめのない学校づくりに努めている」を90%以上めざす。	① 学校評価アンケートで「いじめのない学校づくりに努めている」が平均71%であった。 生徒…83% 保護者…59% 担任は、アンテナを高く情報を入れているが、まだまだ細かく気配をしていかなければならない。	B	B	○全校挙げての協働的な取組が実践でき、いじめ解消が早期に図られた。さらに、アンケート調査の確実な実施といじめのない人権が尊重される学校づくりを目指したい。 ○毎年11月に実施される人権学習参観日への参加が少なかったのが残念である。令和2年度は、名西郡人権研究大会が本校を会場に開催されるのを機に、保護者への啓発を含め、連携を強化していく必要がある。	○携帯電話・スマホによるいじめや人権侵害がさらに起こると予想できるので、携帯電話安全教室の実施回数やその内容についてさらに充実させていきたい ○人権学習の充実を図り、いじめのない楽しい学校づくりをめざす。 ○人権学習の年間計画に基づいた確実な実践も図りたい。 ○道徳科における22項目と関連づけた授業を展開する。 ○いじめアンケートは各学期2回にこだわらず、臨機応変に随時、多く行いたい。
	② 人権が尊重される環境づくり	② 携帯電話・スマホによるいじめやトラブルを防止するため安全教室を開催する。	② ドコモ・法務局より講師をお招きし、6月に携帯電話・スマホ安全教室を開催した。その他パンフレットを配布する等啓発活動に努めた。本年度、これまで大きなトラブルはなかった。	B			
	③ 小中高・家庭・地域との連携	③ 主に、家庭への啓発活動をHPや学年だよりを通してしっかりおこなう。また、人権学習参観日への保護者参加率50%以上をめざす。	③ 人権参観日への参加率は 1年…52.5% 2年…48.5% 3年…35.5% 学年によって参加率は異なっているが、平均すると目標値を下回った。参加者も参加できるような興味がわく参観授業にしていきたい。	C			
	④ いじめをさせない、許さない学校づくり	④ いじめアンケート調査を各学期2回実施し、発見次第生徒指導主事を中心に、各学年が協働体制をしき、いじめ解消に取り組む。	④ いじめアンケートは、各学期2回実施した。その結果、様々な事象を発見し、生徒指導や学年で解消に向けて協働的に取り組むことが出来た。生徒会の委員会活動に取り入れて生徒自ら取り組むことができた。	B			
開かれた学校づくり	① 学校からの情報発信の充実	① 学校ホームページの更新回数を毎月10回の合計100回(4月～1月の10か月間)を目標に増やす。	① 本年度150回の更新と大幅に更新回数が増え、学校からの情報発信の充実大きく貢献できた。訪問者の合計が58万件を超え関心を持っていただいていることがよくわかる。	A	A	○昨年度に比べホームページや学年だよりの充実が図られたことは、大きな成果である。平日で仕事上難しいが、保護者の学校行事への参加率を少しでも上げ、開かれた学校づくりをさらに目指したい。	○単なる情報発信に終わらせることなく、PTA活動のさらなる参加協力を得ながら連携を深め、開かれた学校づくりを推進していきたい。 ○地域の行事等へのボランティア活動参加が年々少なくなってきたが、少子化に負けない取組活動にしていきたい。
	② 学年・学校新聞の広報活動	② 各学年だよりを年間12回発行し、広報活動に努める。	② 各学年とも年間12回の学年だよりを発行し、保護者から好評を頂いている。	A			
	③ PTA活動の活性化	③ 保護者への学校行事等の案内文書を年間12回以上発行する。	③ 年間13回の案内文書を発行できた。ただ、保護者の出席数に関しては、平日ということもありかなり少なかった。	B			
	④ 地域との連携	④ 地域の体育祭や文化祭にボランティアで参加したり、古紙回収に地域の協力を得る。	④ 年2回の古紙回収活動では、部活動単位で参加ができた。地域の方たちと触れ合えるいい機会であった。また、地域の行事等へのボランティア活動への参加ができた。少ない人数ではあったが生徒は真面目に活動ができた。	A			

※ 総合評価における「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった